



ハリーン通信

Vol. 32



〔目次〕

- P1 表紙・ふるさと環境体験ツアー 「アイガモ農法田植え体験」写真
- P2 ふるさと環境体験ツアー 「アイガモ農法田植え体験」多可町中区天田地区
- P3 不法投棄防止地区の活動紹介 加西市常吉地区
行政の活動 建設リサイクル法に関する県内一斉パトロール
- P4 環境イベント 「あびき湿原観察会」加西市
- P5 環境学習 「里山基地作り」西脇市立芳田小学校
「水辺の楽校」小野市立市場小学校
- P6 企業の実践 エコアクション21オブザイヤー2021環境大臣賞受賞
(株)ソーイング竹内
- P7 高等学校の実践 兵庫県・APN（アジア太平洋地球変動研究ネットワーク）
連携フォーラム事例発表 県立社高等学校 生活科学科
- P8 市町の取組「クールチョイスで未来の地球を守ろう」三木市
「SDGs未来都市」に選定 加西市、多可町
環境課からのお知らせ ハリーン通信がインターネットで見られます





アイガモ農法の講演と田植え体験

多可町中区天田地区

兵庫県では、子どもから大人まで、ライフステージに応じた多彩な環境活動に取り組み、身の周りの環境問題に気づき、考え、行動する基盤となる環境学習・教育を推進しています。

6月19日、北播磨県民局では小学生とその保護者を対象に、酒米で有名な地元特産の山田錦の歴史を学び、環境にやさしい有機農法（アイガモ農法）でつくる山田錦の田植え体験を実施しました。多数の応募者の中から16組44名の親子が参加し、普段なかなか体験できないアイガモとのふれ合いや田植えを楽しみました。



「学びの農」インストラクター 吉田さんによると、有機農法の一
番の敵は、「雑草」でアイガモが水かきで田んぼの中をかき回してく
れることで水が濁り、光合成ができない
ため雑草が生えてこないということでした。今回は田植えの後、60羽のアイガ
モのヒナを放鳥する体験ができました。



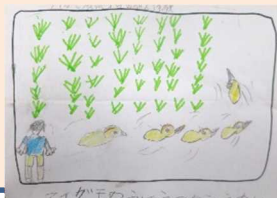
参加した小学校4年生の女の子は「こけそうになってドロドロになったけど、気持ちよ
かった」、アイガモのヒナを持って「生後2週間と聞いてびっくり。柔らかさ暖かさに感動
しました」。また、保護者の方は「学校で配られたチラシを見て参加。親子とも泥は初めて
で、なかなか体験できないこと。ありがとうございます」。など嬉しいメッセージをいた
だきました。

生命を直接感じて欲しいという、インストラクターの 吉田さんの思いが伝わった楽しい
1日でした。



後日、参加した児童からかわいい絵日記が届きました。「田植えは、初めこわかったけど、
入ってみたら、気持ちよかったけどやっぱりこわかった」、「アイガモはとてもかわい
かったです。1ヶ月たってどれだけ成長しているか
見に行きたいと思っています」などの文章と共に
かわいい絵が同封されていました。

ありがとうございました。





不法投棄防止地区の活動紹介 ～加西市常吉地区～



られるようになりました。

工場に出入りする大型車輛も増え、2つの幹線道路沿いにゴミのポイ捨ても一気に増えました。

加西市常吉地区は加西市の東端に位置し、中国自動車道のインターの近くに位置します。元々はのどかな田園地帯でしたが、十数年前から加西東産業団地ができた影響で、人の出入りも一気に増加し、地区を取りまく環境にもかなり変化が見



取材当日は、地区住民全員で周辺の環境美化活動として草刈りをした後、市から提供された不法投棄禁止の看板を不法投棄防止活動推進員らで設置しました。また道路沿いのポイ捨てゴミを回収していきました。



行政の活動紹介



建設リサイクル法に関する県内一斉パトロールの実施



兵庫県では、県民、事業者に対して、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）の趣旨等の普及啓発、同法に定められた諸手続きの徹底等を図ることにより、建築物の分別解体や建設工事に係る再資源化等の適正な実施を確保するため、6月の全国一斉パトロールの取組の一環として、県内一斉パトロールを実施しました。

北播磨管内においても、当日5ヶ所の解体現場を北播磨県民局まちづくり建築課、環境課並びに西脇労働基準監督署合同でパトロールし、届出書の提出や正規業者の施工であること、標識の掲示等を確認、指導しました。





あびき湿原観察会

加西市網引町



6月5日、加西市網引町で希少動植物の多様性を誇る「あびき湿原」の観察会が開催されました。85名の参加者があり、遠くは明石市やたつの市からの参加がありました。また、地元の加西市からの参加者によると、「地元民なのに何も地元について知らないの、広報を見て参加を決めた」とのことで、湿原を散策しながら興味深そうに植物ひとつひとつに見入っていました。

10名単位のグループに分かれ、ボランティアのガイドさんに導かれいざ出発。まず外来種を持ち込まないために、小川で靴底をしっかりと洗う等、環境保護の意識の高さを実感します。



湿原のなかで、小さな植物を見つける度に、丁寧な説明があり、白糸草、モウセンゴケ、花菖蒲（しょうぶ）、タツナミソウ、トキソウ、ツクシハギ、ヒメカンアオイ・・・等々とても繊細で可憐な植物に心を癒やされました。



そして遂に日本で一番小さいトンボである「ハッチョウトンボ」に遭遇



と言っても、最初はどこにいるかわからないくらい本当に小さなトンボ（1円玉弱）です。ガイドさんから、「ほらここですよ。」と示され、目をこらしてやっと見つけることができました。オスはメスにアピールするためにあざやかな赤色なのでかろうじて認識できます。

＊名前の由来：江戸時代、名古屋市の当時の地名の「矢田鉄砲場八丁目」に生息していたことが名前の由来と言われています。

水洗でも汲み取りでもないオガクズを活用した環境にやさしい「バイオトイレ」も兵庫県北播磨県民局ふるさと創生推進事業費補助金等で設置されています。



里山基地作り

ほうた 西脇市立芳田小学校



の様子を見守っていました。

子ども達も3回目とあって、材料の木の大きさを分類する「分類分けチーム」等、役割分担も自分たちで決め、「こっち手伝って！」などの元気の良い声が飛び交っています。

12月には、「里山まつり」と称して1、2年生に自分たちの自慢の基地を見せる授業もあり、一つの目標に向かってみんなで力を合わせている様子がひしひしと感じられました。

「自然（里山）が教科書、ノートは各自の頭」と子ども達に説く講師の笹倉さんが、すぐ横の池の上を指さしました。見ると池の水面の上に白い物体が・・・。環境の良いところにしか産み付けられないという珍しいモリアオガエルの卵でした。貴重な体験をすることができました。



がっこう 水辺の楽校

小野市立市場小学校



7月8日、小野市立市場小学校の3年生44名が、環境体験学習の一環として、近くの山田川で水生生物調査をしました。ボランティアの協力組織である「いちば自然環境保全隊」のメンバーに捕まえた魚や虫を見せては、その説明に聞き入っていました。その後に行われた授業では、見つけた生物をそれぞれ発表した後、外来種の実態や食物連鎖の話、山田川の歴史について学びました。

子ども達は、研究の成果を一人ひとり『水の生き物新聞』と題して「ブルーギルは、どんな生き物？」、「きれいな水にいるもの」、「山田川はどこから？」等々項目ごとに整理し、感想として「ブラックバスが特定外来種と知ってびっくりしました。他の生き物はどんなものが探してみたいと思いました。」と結んでいました。

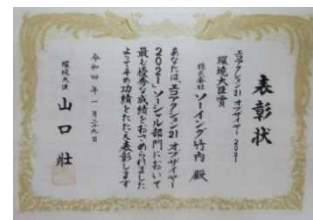


子ども達は貴重な体験を通して多くのものを学び、ふりかえり学習によってさらにその学びを深めていきました。



株式会社ソーイング竹内

エコアクション21 オブザイヤー2021
ソーシャル部門金賞（環境大臣賞）受賞



エコアクション21とは中小企業が二酸化炭素や産業廃棄物排出削減に取り組み、環境にやさしい製品やサービスを開発・販売することを促す制度です。同社は、コロナ禍で世界中がマスク不足となる中、社会貢献への思いから、本業の縫製加工業を活かし布製マスクの生産体制を整備し市場へ供給。さらに、町内の高齢者や未就学児童のために地元自治体へマスクを寄贈されました。また、町内全住民に向けて2万枚のマスクを寄贈という地域への貢献が認められ、環境経営以外の取組で、地域あるいは社会の課題解決への貢献について顕彰するソーシャル部門において、令和4年1月、全国7,443社の登録事業所より「環境大臣賞」を受賞されました。

他にも同社は積極的な省エネ化、クリーンエネルギー促進に努められ、次のような取組をされています。

- ① 社屋兼工場の新設でLED化や太陽光発電システム導入による建物全体による省エネ化。また、地域との避難場所協定の締結
- ② 最先端設備導入で生産コストや廃棄量の削減や最新式生産システムの構築⇒兵庫県経営革新計画承認企業（2018）
- ③ 廃棄生地リサイクルにて、廃棄物量削減と創造的再利用であるアップサイクルへの取組（各種工業用機械部品製造の原料となる布チップの供出）等



2004年にエコアクション21の認証取得し、以後、2年ごとに更新を継続中。取組当初は、社員みんなが「やらされている、面倒、余計な業務の増加」と捉えていましたが、徐々に「取り組むべきもの、よりエコを目指す、それによる企業価値の向上」と意識が変化していきます。

元々は昔ながらの縫製加工場でしたが、70年代後半から80年代にかけて海外企業との競争に勝てなくなり、そこで竹内社長は自分たちのムダ、効率の悪さを徹底的に省いていくことを決意し、文字通り社内の掃除から始めました。効率化を図り、単価を抑えていくやり方が認められ、大手百貨店よりエコバッグの注文を受けます。エコバッグを作る会社がエコじゃないのはちょっと・・・ということで、パイロット事業であったエコアクション21の認証を受けたというのが、今日の取組のきっかけとのことです。



誰でも気軽に休める清潔感あふれる社内のフリースペース

一方、職場環境においても社員を中心に置き、「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」に認定されています。

今後の取組としては、更なるエコファクトリーへの追求はもちろん、2025年の大阪・関西万博を地域産業の認知拡大の絶好の機会と捉え、地域をあげて繊維のまち「播州」を積極的に世界へアピールするオープンファクトリー（製造過程等を一般公開し、モノづくりの魅力を発信する工場見学イベント）の実施を目指すとのことでした。

兵庫県立社高等学校 生活科学科 ～家庭に関する専門学科が取り組むSDGs～

2021年12月、兵庫県・APN（アジア太平洋地球変動研究ネットワーク）連携フォーラム「SDGs・気候変動×食品ロス」で県内高等学校から事例発表校に選ばれました。

本フォーラムは、兵庫県が、2050年までの脱炭素化社会（カーボンニュートラル）を目指して地球温暖化対策に取り組む中、県民に「SDGs・気候変動×食品ロス」について、グローバルな視点とともに、身近な視点からも考える機会を提供する場で、同校は日頃のSDGsを意識した研究活動の成果を発表しました。



栄養班「小学校への食育活動」

（市内小学校 連携）

- ・旬の野菜、地域の特産物
- ・環境問題、食品ロス、食料自給率
- ・和食の大切さ、栄養バランス



「規格外の農産物を使った商品開発」

- ・桃（カレー、ドレッシング、アイス）
- ・播州百日鶏（サラダチキン）
- ・黒田庄和牛（ミートソース、カレー）

食ビジネス班

高校生チャレンジショップ

「フェアトレード商品を使用」

- ・チョコレートのエシカル消費

「地産地消」

- ・フードマイレージを減らし環境に配慮



「チャリティー販売」

- ・売り上げを募金

「少量包装で食品ロス対策」

- ・食べ残しを防ぐ
- ・パウンドケーキの端をラスクに

「レジ袋削減」

- ・持ち帰り袋の持参推奨
- ・土に還る生分解のレジ袋を使用



地方創生班

「もち麦の普及・PR活動」

（加東市・JA・地元企業 連携）

- ・加東市産もち麦の商品開発
- ・地方創生政策アイデアコンテスト応募
⇒3年連続地域経済産業局長賞 受賞

「加東市の魅力発信バスツアー」

（旅行社 連携）

- ・人口、観光客の減少解決
- ・都会の方々に北播磨と地産地消のすばらしさを伝える

「ご当地！うまいもん甲子園（SDGs）」

- ・野菜の廃棄部分を活用
- ・プラスチック容器を紙容器に
⇒全国大会
入賞商品の販売
- ・経済活性化の好循環



保育班

「こども園への食育交流」

（市内子ども園 連携）

- ・エプロンシアターや食育劇の披露
- ・地域の特産品を使った手作りおやつを提供
- ・食育だよりでレシピ提案



「体験プログラム ボランティア活動」

（県立やしろの森公園 連携）

- ・ため池の再生（食物連鎖）
- ・落ち葉で焼き芋作り
- ・植物を植える



「未来は私たちが担い、創り上げていくものなので、目の前のできることから取り組むことが大切だと思います。高校生にできることは限られていますが、その中で自分達に何ができるか、地域にどう貢献するかを考え、次世代へと引継ぎ、つなげていきます」と、研究活動発表の最後に力強く宣言！

市町の取り組み



三木市

クールチョイスで未来の地球を守ろう



5月23日三木市生活環境課が高齢者生きがいセミナーへ出前授業



参加者は市内在住の60歳以上の方々と環境を考える「エコ三木」のメンバー合計10名で、三木市作成のテキストや第3次三木市環境総合計画をもとに地球温暖化の仕組みや影響について学び、後半はグループに分かれ一人ひとりが家庭でできる省エネにつながる具体的な取組（プラグを抜く

等）や他者から聞いてやろうと思った取組（洗髪時シャワーを出しっぱなしにしない等）を発表し合い、意識を高めました。参加者の一人は、セミナーを終え、「孫の世代が住みやすい地球になればと思い参加した。今日は良いきっかけになった」と満足そうでした。



クールチョイスとは、地球温暖化防止対策につながる「賢い（クール）選択（チョイス）」のことで、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量を減らすために国が進めている国民運動



加西市、多可町



2022年度「SDGs未来都市」に加西市、多可町が選定されました

国連が掲げるSDGs達成に取り組む自治体を国が後押しする「SDGs未来都市」に昨年の西脇市に続き、加西市と多可町が選ばれました。加西市は、子育て支援や教育、環境対策などに取り組む仕組みづくりの計画が、多可町は県内の町では初めての選定で豊かな森林を行かした健康づくりや産業振興を進める計画が評価されました。



ハリー通信がインターネットで見られます



平成17年の創刊号から、最新の32号までのハリー通信をインターネットで見ることができます。ぜひ、ご利用ください。
「北播磨県民いきいき情報」を入力し、検索してください。
また、右のQRコードからいつでも見ることができます。

兵庫県北播磨県民局 県民交流室 環境課
電話0795-42-5111（内線341）
FAX0795-42-7535

